

ID No.	1024
研究課題名	造血器腫瘍に対する HSV-1 ウイルス療法の開発
研究代表者	門脇 則光(香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀(東京大学医科学研究所・教授) 北脇 年雄(京都大学・助教) 石野 亮(京都大学・大学院生) 奥 真紀(香川大学・大学院生) 内田 俊平(香川大学・大学院生) 児島 綾一(香川大学・技能補佐員)
研究報告書	<p>遺伝子組換えherpes simplex virus (HSV)-1であるG47Δによるウイルス療法が造血器腫瘍に有効かどうかを明らかにするために、G47Δと同様の遺伝子改変を施したHSV-1であるT-01を用い研究を続けてきた結果、下記の1～3がMol Therに、4がBr J Haematolに受理された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 種々の細胞系列のヒト造血器腫瘍細胞株および臨床検体新鮮腫瘍細胞がT-01により死滅した。</li> <li>2. 細胞への感染と殺傷にはHSV-1レセプターnectin-1の発現が重要である。</li> <li>3. T-01の腫瘍内投与が遠隔の腫瘍に対する腫瘍特異的T細胞反応と抗腫瘍効果を誘導した。</li> <li>4. T-01が形質細胞腫瘍に対し、サリドマイド誘導体との併用で、直接的な殺細胞効果と間接的な免疫機序により顕著な併用効果を発揮した。</li> </ol> <p>さらに、T-01の遠隔腫瘍に対する効果がSTINGノックアウトマウス、MyD88ノックアウトマウスで減弱することから、STINGとTLRによるウイルスDNAの認識が抗腫瘍T細胞反応の誘導に重要と考えられ、今後の発展研究への足がかりとなった。</p>